

2014 年 6 月 20 日・21 日

佐武流山・苗場山

M4 荒川 晶

【参加メンバー】

M4 荒川(単独)

【コースタイム】

6/20(Fri) 和山温泉バス停 08:30～登山道入口 09:30～11:15 檜俣川渡渉点 11:45～ワルサ峰 14:00～14:35 西赤沢源頭 14:45～15:35 佐武流山 15:55～水場 16:50～土舞台 17:40(幕営)

6/21(Sat) 土舞台 04:00～ナラズ山 04:45～06:00 赤倉山 06:20～09:15 苗場山 10:15～13:10 小赤沢三合目 13:20～小赤沢温泉 14:40

【概要】

以前只左 Dr.と共に目指した苗場山だが、行程中予定外の雨に降られ途中撤退をあえなくされた苦い記憶がある。卒業までにもう一度訪れることが出来ればと考えていたが、今年の M4 は 6 月中旬から 8 月一杯までの長い夏休みがあるため、このチャンスを利用して再訪を企画した。前回は北から小松原湿原を経由するロングコースの予定だったが、今回は南の佐武流山から上信国境に沿って北上するルートを取ることにした。人も少なく熊の存在がやや不安であったが、その分静かで充実したひと時を過ごすことが出来た。

【本文】

<1 日目>

前夜にちょっとした飲酒機会があり車の運転は無理だったので都内から高速バス、列車、路線バス、はてはタクシーを乗り継いで 08:30 頃に和山温泉のバス停に到着。佐武流山を目指すことを告げると、津南駅から中心街まで乗ったタクシーの運転手は「よくまあそんな山に」と。バスの運転手はそんな山があるんですかあといった不思議そうな表情をしていた。和山温泉からは鳥甲山の方が有名らしい。

和山温泉入口で降りればいいものを終点までバスに乗ってしまったので若干の登り返しに苦しんだが、車の交通の殆どない国道 405 号線を小一時間歩いて登山口へ。入口手前に水場があるとのことだったが、事前の調査通り潤沢な水がこんこんと湧き出ているので喉を潤し、稜線上の水場が使えなかった時のことにそなえて十分に補給。この近くで山菜取りに来ていたおばちゃんグループと二言三言言葉を交わし、おにぎりを頂く。この後苗場山山頂まで予想はしていたが誰にも会わなかった。

やや冗長な樹林帯の道を歩き 30 分ほどで林道に出る。そこをさらに 1 時間ほど歩いて、月夜立岩というロマンチックな名前の岩峰が見えてきたところで檜尾川への下降点。ちょっと足場の悪い道を下ること 20 分ほどで渡渉点。雨が降り増水すれば涉れないかもしれないとの記載はありかなり心配ではあったが、いざ渡ろうとするとすぐに良い場所が思い浮かばない。過去の記録で見たように上流に遡ろうか、あるいは少し下流側で渡渉した方が楽か、あれこれ思案すること 20 分ほど。結局最短ルートで渡ろうと意を決して、荷物なしで渡渉出来ることを確認の上、思い切って渡渉した。無事に涉ることが出来たが

果たして逆方向には涉ることが出来るか。さながら退路を断ったような気分だった。

この時点で時刻は早くも正午前。夏至に近くまだまだ日没まで時間はあるが、午後の天気の流れが心配なので急がなければならないと思う。やや勾配の厳しい水無尾根を登り、2ピッチでワルサ峰近くまで至る。やや足場の悪い場所があり、地図でもその旨記載していたが他と比べてそこまで顕著に歩きにくいことはなかった。ここを過ぎると稜線に出るのだが、この日は基本的にガスり気味の天気。小雨もぱらつきだったので雨具を準備する。それでも時折北東方向に明日歩く予定のナラズ山・赤倉山・苗場山などの稜線が姿を見せ、縦走が楽しみに感じられるようになった。少し岩場があるがどうということはなく15時前に西赤沢源頭に到着した。



和山温泉にて。津南から乗ってきたバスと共に、鳥甲山。この後すぐに稜線はガスに覆われる。



登山口手前のドロの木平と呼ばれる水場。水量は潤沢で、涸れる心配はなさそう。



(左上) こじんまりとした登山口。大抵の登山者はここから日帰りピストンで佐武流山を目指すようだ。

(上)30分少々歩き、林道と合流する。看板は要所要所にあり、迷う心配はない。

(左)林道から月夜立岩を見上げる。この直上は苗場山の山体の一部になるようだ。





今回の山行で一番の心配箇所だった檜尾川渡渉点。残雪期のせいかな予想より水量が多かった。



あれこれ思案したが、結局ロープ左側の岩 2 つを飛び渉る形で渡渉を終えた。



ここからは樹林帯の急登。急ぎたいがペースを乱さないように歩く。



1 時間少々で物思平。小さな広場になっている。



さらに 1 時間でワルサ峰。この頃から小雨がぱらつき始めた。



稜線からは南の上越国境の山々を望む。夏山では猛烈な藪漕ぎを強いられるのだとか。

西赤沢源頭ではザックをデポしようか少々考えたが、熊出没のことも考え合わせて見合わせ、そのまま佐武流山を目指すことにする。出発後すぐの坊主平では残雪が残り、ルートを失わないように注意が必要だった。その後もぬかるみなども多くやや歩きにくい道が続くが、再び稜線に出た頃にはガスもなくなり、ようやく佐武流山が姿を見せた。もともと目立たない山容の山だが、その奥ゆかしさに一層心

ひかれるものを感じた。20 分ほど歩いて佐武流山山頂。上信越国境地帯では最高峰の山であるが、その静かな佇まいは好印象であった。白砂山への藪ルートを確認しようとしたが見つからず。樹木が多く、展望も北面のみであったが、明日歩く予定のナラズ山・赤倉山へのルートが静かに見えて感慨深い。

のんびりしたい気持ちもあったが、早くも 16 時前と時間が迫るので、15 分ほど滞在の上で再び西赤沢源頭を目指す。ほぼコースタイム通りの時間で再び引き返し、やや急な稜線をコルまで下る。この付近登山道から少々歩いた所に水場があるとの事だったが確実かどうか分からず心配だったが踏跡を辿って行くとさらさらと水の音が聞こえ、小さな流れを見つけることが出来た。ここが涸れていると今晚と明日午前中の水が不足がちになるので心配していたが一気に安心して、喉を潤し再び十分に補給。

ここからやや藪っぽい稜線を歩いて、「テントが張れそうな広場になっている」との思わせぶりの表現のある土舞台へ。実際に幕営した記録も確認出来たので心配なかったが、思ったより距離があり日没が迫る時間帯だったので少々焦った。17:40 頃に漸く到着。テントを設営し、夕食を作り終えた頃には早くも夕闇が迫り始めた。人気もなく、熊も心配だったがこの一帯で戦後、熊による人的被害は一件もないとの事なのでさほど心配はせずに就寝することにした。



西赤沢源頭の看板。案内は丁寧にされている。



坊主平付近では雪渓が残る。ルートロスに注意。



(左上)佐武流山が近付くと北面の展望も開けてきた。左奥が苗場山、右寄りがナラズ山。
(上)中央右寄りのピークが佐武流山。登山口を出てから 6 時間が経過。日帰りはハードそうだ。
(左)誰もいない山頂で記念撮影。静寂が支配し、つつましい佇まいが好印象な山だった。



清津川西ノ沢を俯瞰しながら歩く。白砂山方面は佐武流山の陰で見えず、忠次郎山等を遠望する。



西赤沢源頭を過ぎたところの水場。幸運にも潤沢な水に恵まれた。



水場入口には赤紐が括りつけられて目印になっている。



少し心配したが、無事に暗くなる前に土舞台に到着することが出来た。

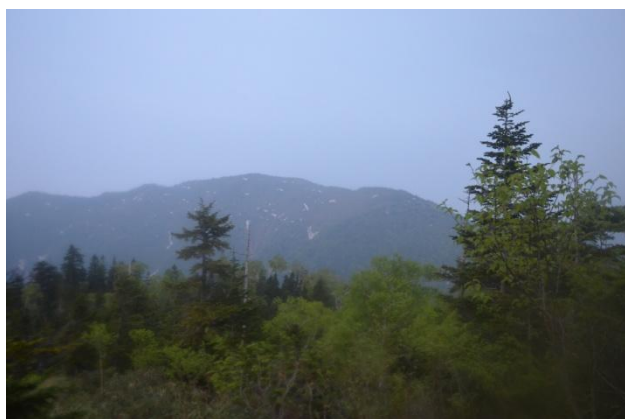
<2日目>

朝 3 時に起床。天候が必ずしも良い予報ではなかったので少々心配だったが、付近を見渡してみるとガスっているわけでも、雨が降るわけでもなく、いわゆる高曇りの様子だった。風もなく、不思議な静寂を感じた。普段の通り食事の支度、テント撤収を済ませ、4 時ごろ出発。

西赤沢源頭からの道は佐武流山への直登ルートと比べてもやや踏まれていない印象を受けた。土舞台まではササはなかったが、ここを過ぎると時としてササ藪の中を歩くことになり、ツキノワグマとの遭遇が心配になる。緩やかなアップダウンを歩いて小一時間ほどすると、次第に佐武流山の展望が広がるようになり、ナラズ山山頂に近付いた。このピークを越えると、苗場山がその独特なテーブル状の山体を見せており、目を楽しませてくれる。

ナラズ沢を右手に見ながら次の赤倉山までの縦走ルート歩く。途中やや足元の悪い箇所があったが順調に歩き、コースタイム 2:00 の所を 1 時間少々で赤倉山に着いてしまった。山頂は広々としているが、樹林帯の中のため展望がない。山頂から離れた所に赤湯温泉ルートが分岐していたが、こちらも藪が多く歩きにくそうであった。少々休憩を取り、苗場山へのルートを目指す。山頂直下には比較的大きな残雪が残り、ぼんやり歩いていると間違えて北方向への尾根に入り込みそうだったが地図で登山道が北西に延びているのを確認してその方向を辿れば無事にルートを見つけることが出来た。ここから赤倉山の

西斜面を下り、苗場山への稜線を目指す。少しずつテーブル型の台地へと近づいてきたことを実感し、その端に付けられた登山道を歩く。苗場山→湿原のイメージがあり台地上に来れば一面の湿原が広がっているのかと期待したが、その後暫くは樹林帯の中を歩き展望は利かない。30分ほど歩いただろうか、不意に木道が姿を現し、同時に湿原を守りましようの趣旨の看板が現れる。ここからは快適な木道歩き。随所に小さな湿原を見ながら歩くことになるが、雪の多いこの地域ならではのことも、あちこちに残雪を見る。時折残雪で見えなくなるルートをと、これはガスっていると大変だろうなと思いながら歩くと、小赤沢コースとの合流点になり、ここから山頂直下までは大きな雪渓歩き。転倒しないように注意しながら歩き、山頂に到着した。



ナラズ山手前のササ藪から、佐武流山方面を振り返る。扇形に広がる山の最高点が佐武流山。



北面には苗場山がその独特の山容を示す。右手前が赤倉山。右遠方には神楽ヶ峰が見える。



(左上) 赤倉山手前からナラズ山を振り返る。山容はこの一帯でも特に目立つ。

(上) 赤倉山山頂にて。展望はなし。

(左) 赤倉山～苗場山の縦走ルートにて。途上には小さな池塘も見られた。





苗場山のテーブル辺縁より振り返る。左から赤倉山・ナラズ山・佐武流山が一望出来た。



次第に道の両端に湿原を見ることが出来た。緑が芽吹くには少し早かったようだ。



山頂に近付くにつれて、湿原はその規模を広げてゆく。



小赤沢ルートとの合流点。奥に鳥甲山が見える。



苗場山山頂手前の大雪渓。残雪は苦手なので慎重に歩く。



苗場山山頂にて。ササ藪で濡れることも考えて、この日は上下の雨具着用。

思っていたより 1hr ほど早い時間で苗場山山頂まで来ることが出来た。今回下山後は小赤沢を 16:30 頃に出るバスを利用予定だったので、少々時間持て余す。下山路は小赤沢コースか平太郎尾根を下るコースも考えていたので、時間に余裕があるので平太郎尾根コースの利用も考えたが、以前の山行の際帰りに立ち寄った小赤沢温泉の赤い温泉を再訪したいとの思いが強く、やや単調なきらいのある小赤沢コ

ースを取ることにした。

気持ちに余裕が出来たので山頂近くの見晴らしの良い箇所ではしばらくの間コーヒーを飲んだりしながら、山頂直下に広がる高層湿原を眺めて過ごす。残雪が多く、新緑の芽吹きには少し早かった印象もあったが、天候は相変わらず高曇りのままで視界もそこそこ開けていたので良かった。時折小赤沢コース、祓川コースからの入山者が通り過ぎ、苗場山は専らこの両者を利用して入山されるのだなと感じる。

1 時間ほどゆっくりして下山を開始することにする。登りで利用した大雪溪を慎重に下り、赤倉山方面の登山道との分岐点を折れる。途中大きめの雪溪があり少しルートが取りづらい所があったが、人の多いルートなだけあってかきちんと誘導ラインが敷かれている。2036P のある坪場付近で平太郎尾根コースと分岐。この一帯からは天狗の庭と呼ばれる湿地帯の見晴らしが良く、苗場山の広さを改めて実感する。少々休憩してここからは樹林帯の下り。人の多いルートだと思い楽に下れるのかと思ったが、足場の悪い箇所が多く歩き辛い。また地図上「湿気の多い道」と記載されていたが、なるほど確かにじめじめしているなあとと思う。4 合目の水場を補給した辺りから尾根に出るので少し歩きやすくなった。さらに 20 分ほど歩いたところで 3 合目登山口の駐車場に出た。週末とあってか車は 10 台ほど。

ここから小赤沢温泉までは登山道を歩いても林道を歩いても 1 時間ほどで到着できる。やや道が整備されていないとの事だったが時間もあるし折角なので登山道を歩くことにした。始めのうちは歩きやすい道が続くが、途中の渡渉点辺りで最近崩落があったらしく、少し雑な形で迂回ルートが付けられていた。日陰沢を渡ると途上にも草が目立つようになり、最近はこのルートを利用する人も少なくなったのだろうことが推察された。もうすぐ道路との合流点というところで、30m 程先にイノシシが居るのを発見。近寄って行ったら逃げるだろうと高を括っていたら私を見つけると逃げるところかどンドンこちらに向かって進んでくる。私が後退すればその分だけ相手も迫る。どうしたものかと思い意を決して威嚇の声を出したら道を空けてくれたので何とか通過。最後の最後で少々ヒヤヒヤさせられた。

道路に合流し、急な下り坂の道を歩くこと 30 分ほどで小赤沢の集落が見えてきた。地図上ではバス停まで降りて登り返さなければいけないようだったが歩行者用のショートカットが準備されており、思っていたより楽に小赤沢温泉の楽養館に到着することが出来た。

以前訪問した時は 4 人だったが今回は私 1 人だけ、当時を懐かしく思いながら温泉でのんびりと汗を流した。最後まで雨には降られなかったがバスに乗る時刻には激しい雨が降り始め、早め下山しておいてよかったなと思った。他にも同じ時刻のバスに乗る人がいたこともあり、施設の人がバス停まで送迎してくれ、予定通りのバスに揺られて秋山郷の集落を後にした。



祓川ルートを振り返る。残雪もまだある。



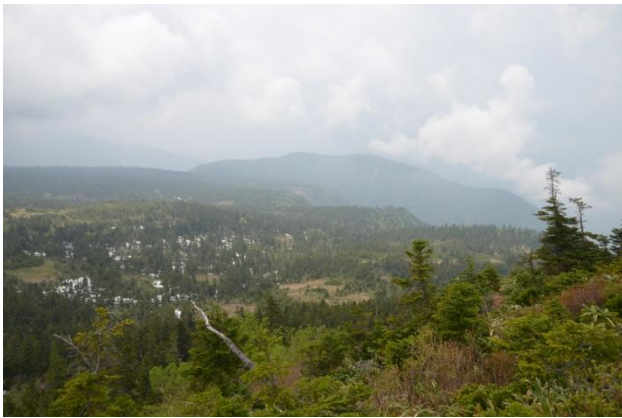
南面に広がる湿原。遠くには佐武流山を遠望。



大きく広がる高層湿原を俯瞰できるのが苗場山の魅力ではないかと思う。



自然体験交流センター付近の展望台より、北西方向の展望。中央は猿面峰だろう。



2036P 付近から天狗の庭方面を一望。樹林の中に小さな湿原が散在している。



同所より苗場山へのルート俯瞰。中央付近で平太郎尾根コースが分岐する。



(左上) 3 合目登山口駐車場にて。山頂からここまでの間、日帰り登山客とよくすれ違った。
(上)3 合目以下の登山道。渡渉は丸太橋だったり飛び石伝いなど、やや手の入っていない印象。
(左)赤い温泉が特徴的な小赤沢温泉。時間もたっぷりあったのでのんびりと汗を流した。

